

被災地の復興を支援

町職員を被災地へ派遣！！

町では、東日本大震災で被害を受けた被災地へ消防職員や保健師、事務職員が向かい、人命救助や復興のための支援活動を行っています。今後も引き続き、救援活動を続けていきますので、町民の皆さんのご理解をお願いします。



▲瓦礫の中で人命捜索を行っている消防職員

消防職員を派遣し

人命捜索活動

3月14日（月）から第一陣として出発し、宮城県仙台市宮城野区で、津波による被害地域での人命捜索活動等を行いました。宿営地は普段と変わらない様子でしたが、一歩外に出ると、津波による被害地域が現われ、海岸線に近い地域は壊滅的な状態でした。

津波被害地域での活動は、毎朝7時30分から開始し、壊され流されてきた家屋や車等が山積みの中、捜索活動を行いました。この間、昼食は吹雪でも屋外の活動場所で摂り、16時過ぎに宿営地に戻るとというサイクルでした。夜はテント内の結露も凍る程の気温となり、寒さで目が覚めてしまう程、厳しい状況中行いました。

3月19日（土）から第2陣として、福島県福島市で福島原発を中心に半径30km圏内からの傷病者搬送活動を行いました。

活動拠点は福島第1原発から約67kmの場所で、放射能という見えない恐怖に不安を感じながらの活動でした。

傷病者搬送では、福島県から群馬県までの遠距離搬送があり、道路状況や傷病者に刺激を与えないため、片道5時間30分

を費やす状況でした。このような状況の中、少しでも被災された方々の心の支えになりたいという気持ちで救命活動に取り組みました。



▲傷病者搬送で待機する救急車と消防職員

町消防団が被災地消防団へ活動援助金を配送

4月25日（月）に、町消防団員が自発的に集めた援助金を、被災地の消防団に届けるため、町消防団を代表して、杉崎秀雄団長と、3名の副団長（土方庸禎氏、奥野和夫氏、土方正美氏）が、宮城県女川町に向向しました。今後も、被災地支援に向け積極的に取り組んでまいります。

（消防本部 緊急消防援助隊）